

人吉市近郊一農家の経営発展過程について

川越義夫*・沢辺恵外雄*

KAWAGOE, Y. and SAWABE, E. Development Process of a Farm
Household Management
near Hitoyoshi City, Kumamoto Prefecture.

1. はしがき 本稿は人吉市近郊の一農家が、経営の集約化を行いつつ商品生産を拡大してきた過程における経営成果の変化を、過去7年間の経済調査の結果から考察したものである。

2. 経営構造の変化 この農家は現在田1町3反、

*九州農業試験場

畑3反8畝を耕作するが、昭和初期から耕地の拡大、集団化、区画整理、乾田化、地力培養、農道施設などを計画的に行い、その基礎の上に戦後耕耘機、カッター、噴霧機などの動力農具を導入し、役馬を排して和牛と乳牛を繋養し、さらに31年度には、乳牛のみ3頭を飼養するに至った。作物の構成も、水稲中心には

変りないが、雑穀、いも類作を縮小して、そさい、煙草、飼料作物へと重点を移し、その過程での労働の多用は、前記のような生産手段の高度化によつて克服している。経営構造の点では、勿論完成したものではないが、小都市近郊という条件を生かした合理的集約化によつて多角的な商品生産が行われており、その拡大

過程は極めて精力的である。

3. 経営成果の考察 上述のような変化の過程における農業経営の成果は表のようである。すなわち粗収入においても、所得においても顕著な上昇が示されている。特に投下労働当りの所得は着実に増大の傾向をとつていとみられる。労働手段に対する資本投下と

農業経営の成果 (24年を100とした農村物價指数による修正値)

項 目	年 次							
	24	25	26	27	28	29	30	
農業粗収益	349,069	405,869	455,801	568,355	622,968	625,847	761,739	
農業経営費	93,816	109,311	107,061	160,327	219,918	280,056	370,860	
農業所得(総額)	255,253	290,083	332,029	378,235	399,845	330,092	372,428	
農業所得(耕地反当)	20,339	21,330	23,887	27,211	27,576	21,296	21,779	
農業所得(農業労働1時間当)	23.4	23.1	27.3	28.6	30.4	27.4	29.2	
農業所得(家族農業労働1時間当)	24.4	23.9	30.7	40.1	37.3	32.5	36.6	
農業粗収益÷農業経営費	3.7	3.7	4.3	3.5	2.8	2.2	2.1	

その利用が合理的になされた経営集約化の過程をみる事ができる。これに対して、耕地反当の所得の増大は特に29年以後必ずしも顕著ではない。このことは同年以後における耕地面積そのものの拡大、和牛から乳牛への移行、農機具の導入などに伴い、経営費もまたかなり増大しながら、酪農の成果がいまだ充分には現われていないことを示すものと解せられ、この意味でこの経営はなお発展の途上にあるといえるのである。このことは経営費に対する粗収益の割合が低下

の傾向をとつて来ていることからいえよう。ただそれにしても所得そのものが、同一階層の熊本県平均とくらべて約2倍の大きさがあることは注目に値しよう。

すなわちこの農家では、前述のような土地条件の整備が、立地条件を生かしうる経営の組織化を可能にし、さらにいわば立体的な商業的農業への発展の可能性を与えたといえよう。計画性とその実行において、経営者能力を高く評価してよいものがある。